

平成30年度岡山県がん対策推進協議会 議事概要

日 時：平成31年1月31日(木) 15:00 ～ 16:30

場 所：ピュアリティまきび「飛翔」

【協 議】第2次岡山県がん対策推進計画 実績評価について

<発言要旨>

－保健福祉部長 挨拶－

- 事務局 資料1～3「第2次岡山県がん対策推進計画実績評価案」について説明
- 会 長 ただいまの説明についての質問・意見はないか。
- 委 員 P8年齢調整死亡率について、地域差の原因・背景説明ができるなら書き加えていただきたい。
- 事務局 なかなか理由を明確に説明するのは難しい。歴年でみると、ある程度の変動はあるものの、一定の傾向があることは確か。岡山県でいえば、がん検診受診率は高く年齢調整死亡率が低いので、検診による早期診断に効果があるのではないかと推測はされるが、書き込むまでの確証が得られていないのが正直なところである。
- 委 員 分析には国でのデータ活用が必要になるため、岡山県から国へご意見いただければと思う。
また、隣県（鳥取県）と情報交換をするとよいのではないかとと思う。
- 委 員 P13, 14の地域におけるがん治療提供体制について、地域がん診療病院が出来たことは大変よかったと思うが、この地域がん診療病院の条件や役割を明確にしないと、今後増やすかどうかの検討が出来ない。また、病院が出来たメリットが住民に伝わらないので、多少丁寧に書き込みをしてはどうか。
- 事務局 地域がん診療病院の条件については、詳細な数値実績を要件にしており今回の資料には掲載していない。病院の役割についてはP16, 17にも書かせていただいているが、地域のがん医療レベルの均てん化と、そのための関係

機関との連携という部分に力点を置いている。

このような部分については機会を捉えて、関係の方々、住民の方々にしっかり説明していきたいと考えている。

- 会 長 各地域で出来た「地域がん診療病院」については、拠点病院ほどではなくてもここに相談すれば適切なところに紹介してもらえるとということ。また、5がんについての対応は、住民全員が受けようと思えば受けることの出来る体制になっているということを中心に啓発していただければと思う。

- 委 員 国立がん研究センターの調査によると、亡くなる前の1ヶ月に痛みをコントロール出来なかった方が4割いると発表された。病院での緩和ケアの充実や相談支援センターの活用がもっと必要である。
また、認定看護師や専門看護師が大病院に偏在しており、地域がん診療病院にいないため、グループ指定先等も使い緩和ケアにアドバイスが出来るような体制整備をしていくことが必要ではないか。

- 事務局 ご指摘の通り、緩和ケアの提供が十分に出来ていないという課題は重要である。緩和ケアの普及はがん対策の柱であり、認定看護師を増やす取組についてもすすめてまいりたい。

- 会 長 緩和ケア研修に関しては医師の受講率はあがっている。看護師も含めてレベルあげをしてもらいたいので、県もPRして欲しい。

- 委 員 がん患者の就労と療養について、色々と対策を進められているところかとは思いますが、実際に現場へ出向くと理解が進んでいないのが現状だと感じる。がんと診断されると退職してしまう方も多く、相談先もまだまだ整備されていない。また、事業者側も関心が薄いのが実情。
県全体として、体制づくりをして前に進めていただければと思う。

- 事務局 現場感覚でのご意見ありがとうございます。治療と仕事の両立については、現在国を挙げての課題ということで、我々も普及に努めている。拠点病院での患者相談窓口や、ハローワークとの協力体制も整いつつある。今後、労働力の確保も大きな課題となっていくことから、企業側でも病気になっても働き続ける環境を整えることで、winwinの関係を築けると考えている。

- 委 員 毎年、経済団体で行っている様々な事業の中で、県から講師を派遣してもらい研修を県内各地で実施している。まだ十分でないところもあるが、引き続

きそのような研修を通じて広めていきたいと考えている。

- 委 員 長期入院中の高校生の教育支援の整備が全国で4割にとどまるとニュースで見た。在籍校に復帰できるような学習支援をお願いしたいが、岡山県ではどのような状況になっているのか。
また、小児がん中国・四国ネットワーク会議ではこのような話は出ないのか。
- 事務局 高校生の単位取得については、教科ごとの教員が入院先に出向くということは難しい状況である。ICT機器を活用した遠隔授業について全国でも研究中であり、岡山県でも実際に相談をいただいて、そのような方について支援しているところである。
小児がん中国・四国ネットワーク会議は、参加者のほとんどが医師であり、症例検討が主であるため、教育に関する検討の場ではない状況である。
- 委 員 特定健診、がん検診を無償化すると、受診率が顕著に上昇した実績がある。つまり、費用が受診率に影響するため、県としても考慮する必要があるのではないか。
- 事務局 検診を受けない理由として、費用の他に時間の制約、健康への自信などさまざまなご意見をいただいている。今後、費用負担による効果にも目を向けて検討する。
- 委 員 検診率があがると、高額医療を押さえ込む成果もあるのではないかと思うので、そのあたりも研究してもらいたい。
- 委 員 電子たばこについては言及がないが、掲載できるのであれば載せた方がいいのではないか。
- 事務局 一般に言われる電子たばこだが、実は「加熱式たばこ」と「電子たばこ」は厳密には異なっている。たばこ葉を使っているのが加熱式たばこ、化学物質を使っているものが電子たばこに分類される。有害性は推定されるものの、科学的な知見が十分でないということから、改正健康増進法においてもまだ踏み込んでいない。
岡山県としては、禁煙・完全分煙施設の認定制度の中では、電子たばこも含めてたばこであるという認識で改正していこうと動いている。
- 委 員 「今後の課題」として知識の普及や啓発が必要ではないか。

- 会 長 肺がんを診療する側とすれば、どちらのたばこにしても害が強いのは分かっている。これが10年、20年先にがんがたくさん発生してから禁止しては遅い。医師会としては禁煙条例をつくってもらいたいと考えている。
- 委 員 家族のがん、自身のがんをとおして長年がんにつき合っているが、患者の支援は本当に手厚くなったと感じることが多くなった。
一点だけお願いするのが、グリーフケアについてである。第1次の計画から俎上に上がっていたが、まだ具体的な取組はないのではと思う。患者さんが亡くなり病院から出た瞬間に、家族への支援が何もないという状態に陥っている。何か具体的な対策、例えば、がんで家族が死亡した時に駆け込むところなどがあれば救われる人が増えるのではないか。
- 事務局 貴重なご意見ありがとうございます。
グリーフケアについては、それぞれの病院で自主的に取り組んでくださっているところも散見されるという状況だと思っている。
今ここで明確な答えを出すことは難しいが、がんを含め、大切なご家族を何らかの原因で亡くされた方に対して、どういったことができるのか研究しながら取り組んでまいりたい。
- 事務局 資料4「全国がん登録の結果概要」について説明
資料5「子宮頸がん予防」について説明
- 会 長 ただいまの説明についての質問・意見はないか。
- 委 員 子宮頸がんワクチンについて、数年前に中学校2年生の大多数の女子に受けて貰っていたが、リスクが提示されてから、積極的にすすめるのはやめようとなっている。今回それをすすめるということか。
- 事務局 おっしゃるとおり、国で以前は積極的な勧奨があったが、副反応があった関係で現在は特に勧めてはいない。ただ、ワクチンを打つことによるメリットと副反応のデメリットを知ってもらった上で判断してもらおうということで、その部分の啓発をするということである。
- 委 員 非常に曖昧。市町村とすれば、ゴーサインが出ればすぐにでもやりたい。そのあたりの少し突っ込んだ意見がいただきたい。

- 事務局 県としても微妙な部分である。現在、ワクチンについて危険というイメージが先行しているため、そうではなくワクチン接種によるメリットとデメリットを知っていただくことを第一歩として、取組みたいと考えている。
- 委員 ワクチン接種をするかしないか、安全か安全でないかという判断に困っている。そこをはっきりしてからでないと思うが、県としてはPRしていくということか。
- 事務局 補足すると、厚生労働省で実際にあのような症状がワクチンのせいで起きたのかどうかという検証を行ったが、統計学的にはワクチン接種の有無による有意差は認められなかった。しかし、全数調査ではないため、真に解明されてはいない。そういったことを含めて正しい知識の普及をはかってまいりたい。
副反応が起きないワクチンというものはないので、そこは副反応が起きる確率と死亡が減る率といったデータを踏まえて、打つか打たないかは各人で判断していただきたい。これは、全ての公的接種に共通するスタンスである。
- 委員 20歳の検診キャンペーンだが、20歳の人も市町村の実施する検診の対象となるのか。
- 事務局 実際にこれからどう進めていくかというところはあるが、子宮頸がん検診について20歳以上の方が対象にはなっている。
- 会長 ワクチンについては、副反応はもちろんあるだろうが、だんだんやる方向に進んでいるのは一貫しており、医師会の講習会でもそのような流れに変わってきている。
- 委員 出来れば100%受けさせたい。
- 会長 これ以上発言がないようなので、本日の予定は終了する。

—閉会—